

# 高齢者のボランティア活動「花鳥お話し隊」 —自分たちのできることを仲間と一緒に—

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部 次長 鈴木 章一



「花鳥お話し隊（かちょうおはなしたい）」というユニークな名前のボランティアグループがあります。

企業を定年退職した男性や家庭の主婦が老人ホームやデイサービスセンターを訪問し、おもしろい野鳥の話をしたり、手話を交えて一緒に歌をうたったりするというひと味違ったボランティア活動をしています。今号では、その概要について紹介します。

## 「花鳥お話し隊」とは

「花鳥お話し隊」の名前は興味深い野鳥の生態（例えばホトギスの「托卵」）や草花の話をするに由来しています。更に、それ以外にも「ジャンケン体操」や「ハーモニカ演奏」「ギターの弾き語り」など盛りだくさんの演目をボランティアメンバーが個々の持ち味を生かして披露し、お年寄りに楽しんでもらう慰問活動です。

## 誕生の経緯

このグループ活動の始まりは16年前の2002年に遡ります。グループの代表者小田嘉一郎氏（現在85歳）は、当時都内に本社を置く大手企業が行っていた、老人ホームや児童館で野鳥の話をする社会貢献活動に参加しており、2009年3月まで熱心に活動を続けていました。会社の事情でその活動は終了することになりましたが、終了時に活動のリーダーでもあった小田氏には「できたらこの活動を継続したい」との思いが強く燻っていました。そんな心の内を小田氏が行動を共にしている地域グループの世話役に話したところ、「それはとても良い活動だね。我々の仲間を声を掛けてみたらどうだろう」と賛同し同士を募ってくれました。すると早速協力者が数名現れ、2009年7月「花鳥お話し隊」と命名し、再出発をすることになりました。最初の活動参加者は6名だったそうです。

## 活動の概要

現在「花鳥お話し隊」は総勢13名（内女性が4名）で、平均年齢は78歳です。活動は開始当初から2ヶ月に1回のペースで年6回行っており、今年8月で通算56回目の慰問活動となりました。初めのうちは小田代表が都内や千葉県北西部の高齢者施設に直接電話して訪問先を探していましたが、最近は馴染みの施設が増え、再訪を要望される（熱望に近い）ことも多く「リピート訪問」が主体になっているようです。

通常1回の訪問メンバーは7～8名で、演目時間はトータル約1時間30分です。小田代表は、活動に参加している仲間に無理のないような訪問計画を立て、効果的な演目の順番を考えてプログラムを作成します。

## 活動に参加して

百聞は一見にしかずということで、筆者も実際の活動現場を見学させていただくことにしました。2018年6月某日の

午後、西武池袋線沿線にあるデイサービスセンターに伺いました。このセンターではとてもきれいにプログラム（図1）を作ってくれていて、スタッフの衣装や花飾りなども用意してあ

図1 花鳥お話し隊プログラム

花鳥お話し隊

平成30年6月29日(金曜日)  
大泉学園デイサービスセンター

ジャンケン、柔軟体操  
手話合唱(サザエさん)  
草花の話  
ハーモニカ演奏・全員合唱  
(夕焼け小焼け・青い山脈・波浮の港)  
托卵  
クイズ・四方山話  
ギター演奏(北国の春)  
全員合唱  
(夏の思い出・365歩のマーチ・浜辺の歌)



(写真1)「サザエさん」を手話を交えて歌っている



(写真2)大きい卵がホトトギス、残り4個がウグイスの卵



(写真3)写真奥の中央で、指揮を執っているのが小田代表

り、「花鳥お話隊」の来訪を心待ちにしていたようです。小田代表も「このような施設だと我々も力が入るし、ボランティア冥利に尽きる」と述べていました。

この活動の各演目を見ていて感心したのは、多彩なメニューもさることながら施設におられる高齢者が一緒に参加できるように工夫されていることです。例えば「手話合唱（サザエさん）」では、まず「サザエさん」の歌詞の手話をわかりやすく丁寧に説明してから、高齢者の方も手話をしながら一緒に歌います（写真1）。ホトトギスの「托卵」では、手作りのホトトギスの模型（カービング）や写真を見せ、実際の鳴き声を再生しながら「托卵をされたウグイスの親鳥は、自分が生んだ卵をホトトギスのヒナに巣から落とされてしまいます。でも鳥の数はウグイスの方がたくさんいるので自然界のバランスは保たれています」と話します（写真2）。スタッフの方々も含め、皆が聞き入っていました。そしてプログラム後半では、合唱が趣味だという小田代表の指揮で「夏の思い出」「365歩のマーチ」「北国の春」などの懐かしい歌をギター伴奏付きで合唱します（写真3）。気づくと、あっという間に1時間以上が過ぎていました。高齢者施設で行なっている慰問活動には色々なものがありますが、「花鳥お話隊」は集まったお年寄りに『一緒に参加しながら楽しんでもらう』という心配りに溢れている点が素晴らしいと思いました。

以上がこの日の主な演目内容ですが、この他にも手品・謡曲・生け花などがあり、当日参加できるメンバーに合わせてその日のプログラムを組み立てているとのこと。メンバーは全員一般の高齢者で、特別な資格や技能の持ち主

ではなく自分の趣味やできることを活かして活躍しています。今回「ハーモニカ演奏」を披露したメンバーは、現役時代に仕事で老人ホームを訪れた時、ハーモニカの合奏団が慰問に来ていたことを思い出し、「自分にもできるのでは」と定年退職後にハーモニカの練習を始めたそうです。

## 高齢者の社会参加

「花鳥お話隊」のボランティアメンバーはDAA<sup>1)</sup>という組織の地域グループに所属しており、日ごろからハイキングや懇親会などで顔見知りのため、気軽にボランティア活動に誘える・参加できる雰囲気があるのではないかと思います。最初から「ボランティアを目的とした会に参加した」のではなく、知人に誘われて入ったら「ボランティアをしている人達がいた」ということです。

人生100年時代と言われる今日の日本ですが、勤めていた会社を退職した後「20～30年という長い期間、何をどう生きていいか」という問いが時々聞かれます。「社会のために何かしてみたいけど、特技はないしボランティアはきっかけがつかめない」という方も少なくないでしょう。

私自身もそうですが、行動を起こすのに躊躇してしまう人は、誰かにポンと背中を押してもらおうと新しい世界に飛び出すことができるのではないのでしょうか。

1) DAA(ダイヤ・アクティブエイジング・アソシエーション):主に三菱グループ企業の出身者が退職後、社会参加を目的に結成した自主的な高齢者のグループ。首都圏に7つの地域グループがあり合計で約250名の会員がいる。(DAAについては、「ダイヤ財団 DAA」で検索してください)